

社会資本総合整備計画 社会資本整備総合交付金

平成30年02月02日

計画の名称	折尾駅周辺地区における連続立体交差事業の推進による活力あるまちづくり（交通拠点連携集中支援）												
計画の期間	平成30年度～平成34年度（5年間）							重点配分対象の該当	○				
交付対象	北九州市												
計画の目標	鉄道連続立体交差事業により交通結節点機能を強化することで、北九州市の西部地域の都市拠点として活力あるまちづくりを支援する。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	12,524	A	12,524	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H30当初	H32末	H34末
1	100 H34年度末の連続立体交差事業完成に向けた事業の進捗率 事業進捗率＝（（Σ年度別事業費）／（全体事業費））	71%	94%	100%
2	100 連続立体交差事業の完成に伴う踏切除去（H34年度）で、一日あたりの踏切自動車・歩行者交通遮断量が削減される割合 削減率＝（1－（事業後踏切自動車・歩行者交通量）／（現況踏切自動車・歩行者交通量））	0%	68%	100%

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	○
踏切自動車・歩行者交通量18.1万人台・時／日（H21当初）各線の高架化完了年度：（H31年度末）筑豊本線高架化完了（H32年度末）鹿児島本線高架化完了（H33年度末）短絡線高架化完了H34年度末 連続立体交差事業完了								

A 基幹事業																			
基幹事業 (大)	番号	事業	地域	交付	直接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		種別	種別	対象	間接							H30	H31	H32	H33	H34			
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	街路	一般	北九州市	直接	北九州市	S街路	改築	折尾駅周辺 (JR筑豊本線 ・鹿児島本線)	鉄道連続立体交差 4.5km	北九州市	■	■	■	■	■	12,524	1.1	—
		国債設定予定期間 平成31年度～平成32年度																	
											小計						12,524		
											合計						12,524		

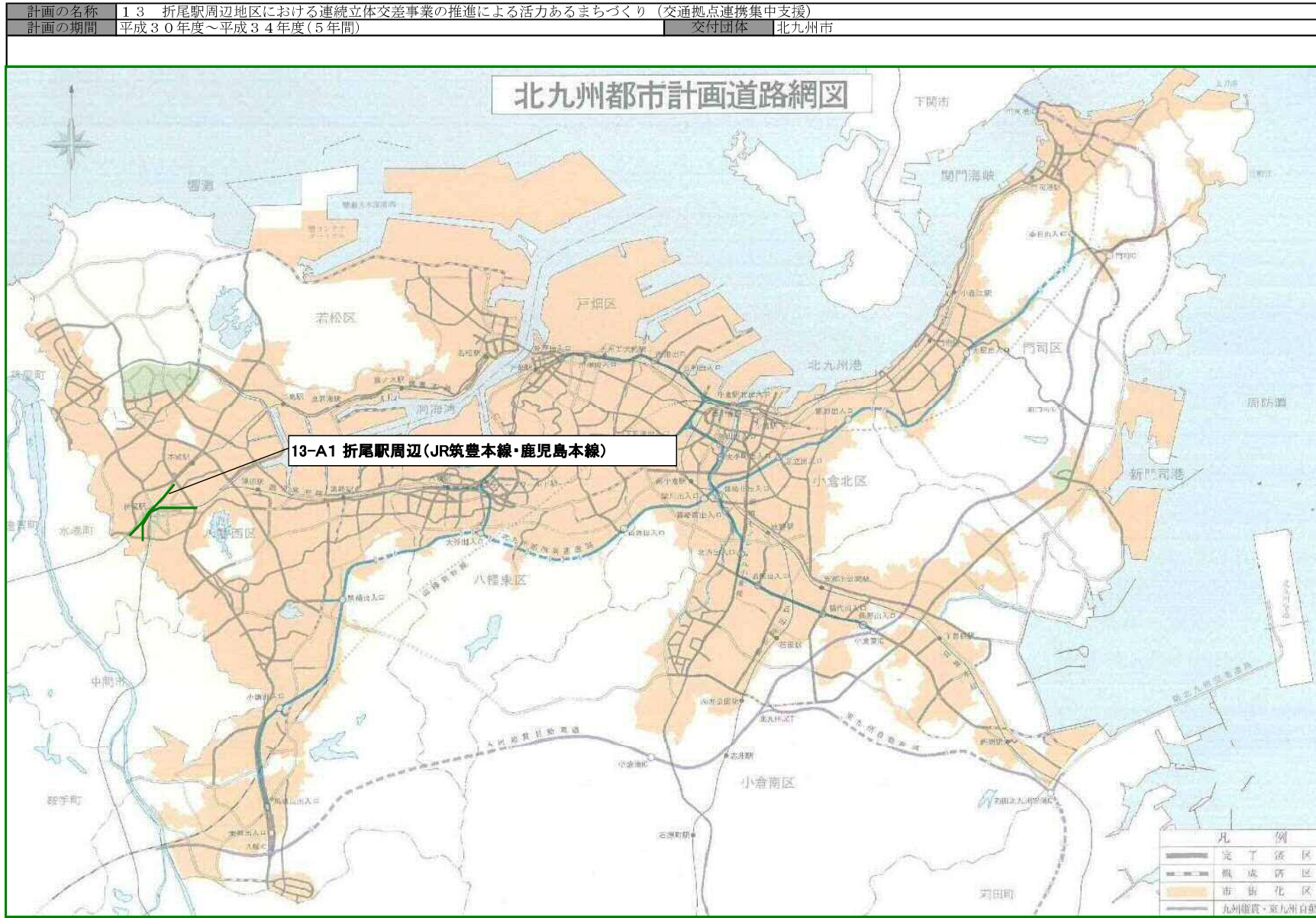
交付金の執行状況

(単位：百万円)

	H30				
配分額 (a)	2,184				
計画別流用増△減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	2,184				
前年度からの繰越額 (d)	0				
支払済額 (e)	1,271				
翌年度繰越額 (f)	913				
うち未契約繰越額 (g)	360				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	16.50				
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由	一部工事において、関係機関との調整が難航し、年度内の執行が困難となったため。				

(様式第8)

社会資本総合整備計画 参考図面



事前評価チェックシート

計画の名称： 折尾駅周辺地区における連続立体交差事業の推進による活力あるまちづくり（交通拠点連携集中支援）

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性	
I. 目標の妥当性 ①基本方針・上位計画等との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 ②地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 ②地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置付けが高い	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ③目標と事業内容の整合性等 4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性	
II. 計画の効果・効率性 ④事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 ④事業の効果 2) 他の事業との連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 ⑤地元の熱意 1) まちづくりに向けた機運がある。	○
III. 計画の実現可能性 ⑤地元の熱意 2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
III. 計画の実現可能性 ⑤地元の熱意 3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
III. 計画の実現可能性 ⑥円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○